

敦賀火力発電所 海水電解装置から敦賀市上水道への海水逆流に係る 原因と再発防止策について

2026年7月27日
北陸電力株式会社

当社敦賀火力発電所において、海水電解装置から敦賀市の上水道への海水逆流が発生し、敦賀市より改善指示書を受領いたしました。（2026年7月21日、7月23日お知らせ済み）

地域の皆さま、関係機関の皆さまには多大なるご迷惑、ご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。

このたび、本事案の原因および再発防止策を取りまとめましたので、お知らせいたします。

当社といたしましては、本事案を重く受け止めており、指示内容に適切に対応するとともに、再発防止策を着実に実施してまいります。

なお、敦賀火力発電所全体を点検した結果、類似の誤接続はありませんでした。

1. 原因

【原因1】

- ・水道法に関する理解不足から海水電解装置において、クロスコネクション（水道水設備と水道水以外の配管との直接接続）状態となることを認識せず設置した（1998年度施工）。

これにより、上水道へ海水が逆流する可能性がある系統となっていた。

【原因2】

- ・海水系統と上水道の間には弁が設置され隔離していたが、海水電解装置内の循環ポンプシール水系統洗浄の際に上水道の弁を開操作（2026年6月18日実施）した後に、閉操作を失念した。

また、シール水系統洗浄の手順書がなく、弁状態のチェック漏れが発生した。

2. 再発防止策

【原因1への対策】

- ・水道法に適応した設備とするため、海水電解装置の上水道受入系統に受水槽を設置し、上水道と海水の配管が直接繋がらない系統に変更する。
- ・水道法に関する定期的な教育を実施する。

【原因2への対策】

- ・設備の運転に関して、手順書を用いて適切に操作することを徹底する。

上記、原因と再発防止策について、敦賀市はじめ関係機関にご報告いたしました。

以上

別紙：設備概略図

【海水流入経路】

海水電解装置：海水を電気分解して「次亜塩素酸ナトリウム」を生成し、海水に注入することで、海水取水系統への海洋生物の付着・生成を抑制する装置

